

【様式4】令和3年度 学校自己、及び、学校関係者評価表 武蔵村山市立第五中学校

経営理念	(1) 主体的に学習・生活し、学力・体力の向上を目指す学校 (2) 自他の人権を尊重する精神を育てる学校 (3) 地域に根ざし、地域と共につくる学校	【学校運営協議会・会長】 荒崎 昌政 学校運営協議会（学校評価分）第1回 6月3日（木） 第2回 11月4日（木） 第3回 2月18日（金）
------	--	---

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取目標)	学校関係者評価			
				10月		1月				最終評価		意見	評価点 (4点満点)
				達成値	達成値	達成値	達成値			達成度	評価		
確かな学力の向上	【中期】 全生徒に対する基礎学力の定着を図る。	地球未来塾事業や東京都立武蔵村山高等学校生徒の学習サポートを活用し、定期考査前や放課後、長期休業中に、補習授業や補充教室を実施する。	・補習授業・補充教室の回数(時間) ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90	74	76	83	A	定期考査前に、担当教科の教員が補習教室を計画的に行うことができた(年間4回)。「地域未来塾」を計画的に活用し、3年生の数学と英語の学習を夏季・冬季休業中と9月からは毎週行い、成果を出した。武蔵村山高校の生徒を呼んでの学習会を1年生を対象に夏季休業中にできた。	来年度も引き続き、定期考査前の補習教室、「地域未来塾」、武蔵村山高校の生徒による学習サポートを実施し、基礎学力の定着を図る。地域未来塾は、昨年度より参加者は増えたものの各クラス10名程度になるよう声掛けを続ける。	方策に対する取組はできているが、成果としてはあまり出ていない。校区内の小中での連携が必要。コロナ禍ではあったが、武蔵村山高校と連携し夏季補習講座ができて良かった。高校生が熱心でした。補習の必要な生徒にとっては有意義だったと考える。取組が定着し、保護者の安心感はあると思います。	3.3	
	【中期】 家庭学習時間を増やし、習慣化を図る。	「学習の手引き」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。保護者会や学年便りなどで、家庭学習習慣の確立に向けた保護者への啓発を行う。	・家庭学習に取り組んだ時間 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80	57	66	77	B	昨年度に続き、家庭との連携を深めるために、学習の手引きの改訂版(保護者の役割掲載)を配布し、協力をしていただいた。しかし、家庭学習の習慣化は十分とは言えない状況である。	次年度も年度当初に、学級活動等で担任から「学習の手引き」を使った指導を行い、習慣化を目指す。家庭学習ができる学習支援コンテンツを活用してもらうよう保護者会や面談等で家庭に協力を求めていく。	取組や呼びかけはしている。家庭学習に対する意識の向上と家庭の協力が必要。計画を立て、学校と共に進めていくことに課題がある。テスト前だけでなく習慣的な学習が必要。	3.0	
	【中期】 読書活動・朝学習の活性化を図る。	朝学活終了後、朝読書や朝学習、NICを実施する。また、学校司書と連携し、学級図書室の配置や図書室活用を通して、本への興味・関心を高め、読書量を増やす。さらに1人1台のタブレット端末を活用し、朝学習を行う。	・図書室の利用生徒数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	85	68	69	81	A	今年度は学年ごと曜日を設定して朝読書を行ったが、十分に身に付いたとはいえない。図書室の活用は、昨年度引き続き、感染症防止対策を行い開館することができた。	例年とは違い、貸し出し可能冊数を感染状況に合わせて変えるなど工夫をしながらの図書室活用を行った。来年度も図書室の利用や学級図書室の活用を工夫して行っていく。	学級や学年により取組に差があるのではないかと。タブレット端末の接続がよくないため、使用率が低いのではないかと。地域の図書館の利用制限があったので、学校図書室の利用の充実を。朝読書が習慣化している生徒が見えつつある。	3.2	
	【中期】 基礎的・基本的事項の向上を図る。	各種検定に自主的に取り組みませ、学習意欲と基礎的・基本的事項の向上を図る。	・検定受験生徒の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	80	63	70	83	A	コロナ禍ではあったが、可能な限り検定試験(漢字・英語・数学検定)を受けられるよう機会をつくった。	次年度も漢字・英語・数学の各検定の日程を生徒へ周知し、受検を奨励し、いずれかの資格を取得させるよう努める。	積極的に参加している生徒は力を付けている。漢字検定だけでなく、英語検定や数学検定も行ってよい。検定日が他教科や行事と重なることがあり、人数を増やすことが難しかった。	3.3	
豊かな心の育成	【中期】 いじめ撲滅への取組	年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談、人権教育に関する授業を行い、生徒が主体的にいじめ防止の取組を行うよう推進する。SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う。道徳の授業において生命尊重や思いやりを重点に指導する。また、道徳授業地区公開講座等保護者の参加を促し、家庭と連携した取組を行う。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90	70	72	79	B	年3回のふれあい月間によるアンケートや2者面談等を行い、いじめ防止の取組を行ってきた。また、今年度も各名のスクールカウンセラーを配置してもらい、生徒や保護者のカウンセリングも行うことができた。	コロナ禍でSNS教室ができなかった。また、道徳授業地区公開講座は紙面発表のみとなったので、来年度は開催し、未然防止に努めていきたい。	生活指導部と各学年で力を合わせて対応している。いじめが減ってきているように思います。SNSに対する指導が必要である。目に見えないいじめに対してアンテナをはり、敏感に対応する必要がある。学校と家庭や学校外の地域との連携も必要と感じるので強化していけるとよい。コロナ禍で実施できない行事があったが、保護者会で発信できた。	3.2	
	【中期】 特別な支援を要する生徒への対応	特別支援教室、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関と連携し、教育相談活動の充実を図るとともに、ユニバーサルデザインを推進する。また、不登校コーディネーターを中心に個に応じた指導を進める。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90	64	78	79	B	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも参加し、教育相談部会を毎週1回開催し、生徒支援の具体策の検討・実施を行うことができた。巡回心理士や特別支援教室の指導教員と協働して、個別指導や特別の支援が必要な生徒への指導が行えた。	次年度も、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの教育相談部会参加により、関連機関との迅速な連携を行う。特別支援コーディネーターや特別支援教室の指導教諭、巡回心理士を中心に不登校生徒や特別の支援が必要な生徒の支援体制を充実させる。	対象の生徒はたくさんいるが、対応した取組ができている。該当する生徒への他の生徒の理解がもう少しと感じる。特別支援教室を設置し、支援の充実が進んでいる。早めの対応と支援が大切である。情報共有がされていた。	3.2	
	【短期】 地域活動・ボランティア活動を充実させる。	担当者の計画的なボランティア募集等の取組により、地域行事やボランティア活動への生徒の参加率を高めていく。	・参加した生徒の延べ人数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90	57	51	60	B	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、計画は立てたもののほとんど取組を行うことができなかった。八・十小へのあいさつ運動とペットボトルキャップ回収は行うことができたが、読み聞かせは行えなかった。	次年度は、校区の小学校と連携した取組と地域行事へのボランティア参加が行える状況であれば、生徒の参加を促していく。	ボランティアの募集はできたが、コロナの影響で実施できていない。コロナでボランティア活動ができていないが、ボランティア精神はもっていると思う。身近なボランティアも重視する必要がある。少しずつボランティア活動を回復してほしい。	2.4	
健やかな体の育成	【中期】 オリンピック・パラリンピック教育の推進	オリンピック・パラリンピックについて学び直しをし、オリンピック・パラリンピックに関する機運を再度高める取組を行う。また、豊かな国際感覚を養うとともに、体験や交流を通して、障害者理解を推進する。	・オリパラに関する授業の実施回数 ・教師自己評価 ・生徒アンケート	85	62	69	78	B	障害者理解を深めるために、東京都のオリ・パラ事業を活用し、外部からパラリンピアンを招いた講座と市の指定を受けた事業で2回の講演を行った。	来年度はオリパラ教育で培ったレガシーを継続し、国際理解教育や障害者理解教育、SDGsを推進していく。	オリンピック観戦はできなかったが、オリパラ教育の取組(講演会等)は行えた。	3.1	
	【短期】 基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高める。	残食ゼロウィークに積極的に参加し、給食の残菜率の結果分析に基づき、食育の取組を行う。給食時の放送を利用して、食材の紹介をする取組を行う。	・給食残菜率調査 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90	65	68	74	B	今年度は、新型コロナウイルス感染防止の取組(給食前の手洗いの徹底、給食係の手指消毒の徹底、班での給食を止め、個人での食事を実施等)を行った。また、昼の放送で、食材の紹介等を行った。	年度当初の呼びかけと徹底で新型コロナウイルス感染防止の取組が根付いたので来年度も継続して行う。また、昼の放送を活用し給食について知らせしていく。来年度、残食ゼロウィークを給食委員会を中心に取り組んでいく。	ほとんどの生徒は給食を楽しみにし、放送も主体的にできている。黙食できたのはよかったのではないかと。学級により残食の量も異なる。食べ物を大切にすることと食育に力を入れるべきではないかと。残食量の結果が分からないため評価が難しい。	3.0	
開かれた学校	【中期】 コミュニティ・スクールとして、学校への参画意識を高める。	コミュニティ・スクールとして、活動方針や活動内容を周知し、様々な取組を推進する。	・学校運営協議会が関わる活動に参加した生徒・保護者の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90	78	78	86	A	今年度は、職場体験が実施できなかったが、昨年度から始めた職業講話(プロから学ぶ会)を実施した。また、3年生に対し、面接官として模擬面接を実施していただいた。今年度の芝刈りや防犯パトロールもPTA役員や地域の方に参加していただき実施することができた。	3年生に対するの模擬面接は、緊張感をもちず意味でも継続していきたい。また、職業講話(プロから学ぶ会)は、次年度も継続していきたい。次年度も芝刈りや防犯パトロールを実施していきたい。	コロナ禍での実施はオンラインや紙面開催で良かったのではないかと。多数の卒業生に支えられ、豊かな人材に恵まれて良いと思う。定期的な会議ができた。防犯パトロールもできた。	3.4	
	【中期】 保護者・地域の教育力を取り入れた教育活動の展開	地域行事へ積極的に参加し、地域の教育力で社会性を育む。SDGsを知り、国際理解教育を推進し、地域や横田基地との交流を進める。	・外部講師の活用回数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90	67	75	79	B	今年度もコロナの影響で計画のみで、ほとんどできなかった。しかし、五中フェスティバルを行うことができた。生徒が生き生きと活動できたことはとても大きかった。	次年度は、地域行事に参加できるよう声掛けを行っていく。また、SDGsや国際理解教育を推進できるような計画を立て、準備をしていく。	地域の人々の協力を得ていてよいと思う。五中フェスはとても良かった。SDGsに関しては意識がまだ低い。	3.2	
									平均値	3.3			

【達成度】 = 【達成値】 / 【目標値】

【評価】 A: 8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B: 8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C: 5割未満→目標の見直し